

令和 6 年 6 月 25 日現在

機関番号：82705

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02775

研究課題名（和文）中学ことばの教室担当者の役割とあり方に関する研究 - 教室経営ガイドブックの作成 -

研究課題名（英文）A Study on the Role and Ideal Role of Junior High School Language Classroom Staff: Creation of a Classroom Management Guidebook

研究代表者

滑川 典宏 (namekawa, norihiro)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・情報・支援部・総括研究員

研究者番号：80804509

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：平成30年度から通級による指導が高等学校で実施されることになり、小・中学校の通級による指導と同様に教育的効果が期待されている。しかし、全国的に中学校のことばの教室の設置数は少なく、小学校のことばの教室を卒業後に何も支援されていないまま中学校生活を送っている現状がある（特総研2017）。これまでの研究の中では、中学校のことばの教室の現状や担当教員が抱える課題について明らかにした研究はみられない。そこで、本研究では、中学校のことばの教室担当教員が抱える教室経営の現状と課題について明らかにし、初めて中学校のことばの教室担当教員になっても、安心して教室経営ができるガイドブックの作成を目的とする。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、全国のことばの教室に訪問調査等を行い、中学校のことばの教室担当教員の現状と課題について整理する。また、各地域で積極的に言語障害のある中学生を指導している担当教員に研究協力を依頼し、「担当教員の役割」、「教室経営の課題解決に向けた取組」等について情報を収集する。訪問調査等の結果をまとめ、「中学校のことばの教室経営の手引き Q & A」の骨子を作成し、中学校のことばの教室担当教員の役割等を明らかにし、中学校のことばの教室の充実に寄与することを目的としている。収集した情報を元に作成中の「中学校ことばの教室経営の手引き Q & A（案）」の内容について研究協力者等と協議を行い、内容を整理した。

研究成果の概要（英文）：Starting in 2018, part-time classroom instruction will be implemented in high schools, and it is expected to have the same educational effect as part-time classroom instruction in elementary and junior high schools. However, the number of language classrooms in junior high schools nationwide is small, and students who graduate from elementary school language classrooms continue their junior high school life without any support (Tokusei Kenkyusho 2017). No research to date has shed light on the current state of junior high school language classrooms or the challenges faced by the teachers in charge. Therefore, this study aims to shed light on the current state and challenges faced by teachers in charge of junior high school language classrooms in classroom management, and to create a guidebook that will allow first-time teachers in charge of junior high school language classrooms to manage their classrooms with confidence.

研究分野：特別支援教育

キーワード：中学校のことばの教室 言語障害のある中学生

1. 研究開始当初の背景

平成5年から、通級による指導が制度化され、それ以降言語障害特別支援学級を中心としながら、通級指導教室が増設されていった。現在、発達障害のある児童生徒が通級による指導を受ける機会が急増し、平成28年度には、小・中学校の通級指導教室が4,504校設置され、前年より544校も増加している(文部科学省, 2016)。平成30年度からは、小・中学校からの切れ目のない学びの連続性を確保し、生徒一人ひとりの教育的ニーズに即した適切な指導及び支援を提供するために高等学校で通級による指導の実施に向けた準備が着々と進んでいる。高等学校の通級による指導の対象者は、「中学校において通級による指導を受けている生徒」(文部科学省, 2016)と示されており、中学校のこたばの教室に通っていた生徒も対象となっている。

しかし、小学校のこたばの教室で指導を受けている児童数36,413人いるにもかかわらず、中学校のこたばの教室で指導を受ける生徒数は380人と激減している(文部科学省, 2016)。これは、中学校に進学後も通級による指導が必要にもかかわらず支援されていない生徒の数が圧倒的に多いことが明らかにされている(国立特別支援教育総合研究所, 2017)。そのため、生徒や保護者の中には、「中学校にこたばの教室がないために通いたいけど、通えない。」(北海道言語障害教育研究協議会, 2013)「県内に『こたばの教室』のある中学校は1校だけです。中学校にこたばの教室がないために、6年生になると進学先に悩む親がいます。」(千葉県こたばを育てる会, 2016)と切実な訴えがあり、大きな課題となっている。また、言語障害を対象とした教室の設置数は、小学校の922校あるのに対して、中学校では11校と極端に少ない(文部科学省, 2016)。そのため、複数障害対応の中学校の通級指導教室や小学校に中学こたばの教室が併設されている、小学校のこたばの教室がサービスで中学生の相談を受けている等の現状がある(国立特別支援教育総合研究所, 2019)。

2. 研究の目的

中学校のこたばの教室の設置数が少ないことにより、中学校のこたばの教室担当者が抱える悩みも大きい。思春期に入った中学校のこたばの教室に通う生徒は、他校のこたばの教室に通うことに抵抗感を感じ、行事や部活などで指導時間の確保が難しくなり、支援が必要にもかかわらず、通級による指導を希望しない現状もある。担当者も「突然の配置換えで、こたばの教室の担当者になりどのように指導していいのかわからない。」「担当者が一人のため、悩みを相談できない。」「発達障害の専門的な指導を求められて悩む。」など様々な悩みを抱えている現状がある(国立特別支援教育総合研究所, 2017)。このような実態があるにもかかわらず、これまで、中学こたばの教室の現状や担当者の抱える課題について焦点をあてた研究はみられない。

そこで、滑川(2016)は担当者自身が、子どもの主体性を引き出す「キーパーソン(信頼できる他者)」(図)として重要な役割を果たしていくとしているが、中学校のこたばの教室担当者が抱える現状は、上記に記したとおり非常に厳しい。このような現状の中で、高等学校通級との学びの連続性を実現するためのキーパーソンとしての役割を果たし、安心して教室経営をするために、本研究では、中学こたばの教室担当者が抱える教室経営の現状と課題について明らかにし、はじめて中学こたばの教室担当者になっても安心して教室経営ができるガイドブックの作成を目的とする。

3. 研究の方法

中学校のこたばの教室担当者が抱える教室経営の実態や課題について明らかにし、各地で積極的に中学生の指導をしているこたばの教室の担当者年間を通して実践研究を行い、「中学こたばの教室経営ガイドブック」を作成する。

- ・積極的に中学生を指導しているこたばの教室を視察し、研究協力校決定する。
- ・中学こたばの教室経営インタビュー調査等を実施し、教室経営の現状と課題を把握する。
- ・インタビュー調査の内容を整理し、中学校こたばの教室担当者の抱える課題を明らかにする。
- ・研究協力校と教室経営の課題を解決するための取組について、情報収集をする。
- ・研究協力校と「中学こたばの教室経営のガイドブック」の骨子を作成する。
- ・研究成果「中学こたばの教室のガイドブック」を冊子印刷・作成し普及を図る。

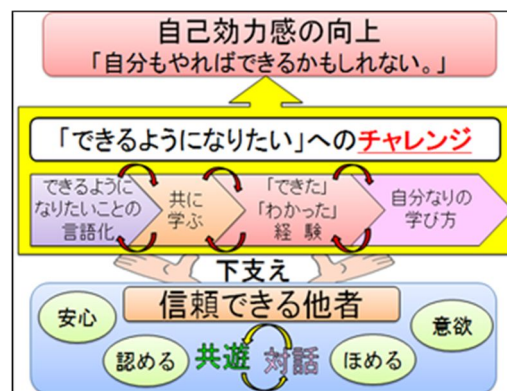


図1. 自己効力感を高めるためのプロセス

4. 研究成果

(1) 積極的に中学生を指導していることばの教室を視察及び中学校のことばの教室経営インタビュー調査等を実施について

公立中学校2校及び中学校での教職経験のある小学校のことばの教室担当教員に研究協力を依頼し、中学校ことばの教室経営等の情報収集を行った。しかし、新型コロナウイルス感染症のため緊急事態宣言等により、当初、予定していた研究協力者の学校に訪問して実践研究を行うことが難しい状況になってしまった。そこで、研究協力者から、テレビ会議システム等を活用して各学校のことばの教室経営等の情報を収集することができた。

成果として、中学ことばの教室の教室経営計画、個別の指導計画、初回面談で使用する書類、保護者との連携するための様式、在籍校と連携のための書式、教室だより、連絡帳等の具体的な情報を収集することができた。

(2) 「中学ことばの教室経営のガイドブック(案)」の骨子の作成について

研究協力者から収集した情報を元に「中学ことばの教室ガイドブック(案)」の目次を作成した(図2)。目次の内容について研究分担者及び研究協力者と協議を行い、ガイドブックの内容を整理した。目次に沿って、内容を検討し、中学ことばの教室担当教員が使用しやすいように自分で記入できるような工夫や内容を精選する等の意見交換を行った。

また、研究協力者の地域では、新型コロナウイルス感染症予防のため、ICT機器を活用して中学校のことばの教室担当教員のネットワークを構築する動きが生まれた。中学校ことばの教室を一人で担当している担当教員や経験の少ない担当教員が、ICT機器を活用し、定期的にベテラン担当教員と情報交換を行っていた。各地の中学校において、ICT機器が充実したことにより、テレビ会議システムを活用したネットワークの充実を図る取組に寄与する事例を収集することができた。

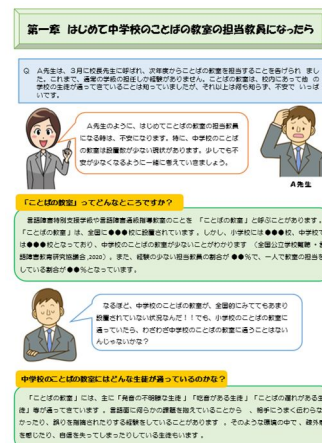


図2. 中学ことばの教室経営のガイドブック(案)

(3) まとめ

全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会の全国大会等に参加し、小・中学校のことばの教室から、中学校のことばの教室に関する現状と課題について情報を収集することができた。中学校の担当教員が、ことばの教室に通う中学生を指導する上で、「大切にしていること」、「小学校との引継ぎ」、「校内への理解啓発」、「関係機関との連携」等の取組について情報を収集することができた。また、テレビ会議システム等を活用して、中学校のことばの教室担当教員から、巡回指導に関わる教育現場の現状と課題について情報収集することができた。

これまで収集した情報を元に作成中の「中学校ことばの教室経営のガイドブック(案)」について、継続して、研究分担者及び研究協力者と協議を行い、手引きの内容を整理した。しかし、「中学校ことばの教室経営のガイドブック(案)」の完成までは至らなかった。そこで、申請者が取り組んでいる科学研究助成事業 基盤研究(C) 課題番号(21K02696)「中学校ことばの教室に通う言語に障害のある生徒の主体性を育む指導・支援の実践的研究」において、本研究成果を活用していく。

<引用文献>

- 1) 国立特別支援教育総合研究所(2017)平成28年全国難聴言語障害学級及び通級指導教室実態調査.
- 2) 国立特別支援教育総合研究所(2019)言語障害のある中学生への指導・支援の充実に関する研究.
- 3) 文部科学省(2016)平成28年度 通級による指導実地状況調査結果.
- 4) 文部科学省(2016)高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について
高等学校における特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議報告.
- 7) 滑川(2016)平成28年度LD学会自主シンポジウム,
「前思春期における支援を要する子どもの主体的な学びを育てる指導のあり方」.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 滑川典宏 久保山茂樹 牧野泰美
2. 発表標題 言語障害のある中学生への指導・支援の充実にに関する研究
3. 学会等名 日本特殊教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久保山 茂樹 (kuboyama shigeki) (50260021)	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・インクルーシブ教育システム推進センター・上席総括研究員 (82705)	
研究分担者	牧野 泰美 (makino yasumi) (80249945)	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・研修事業部・上席総括研究員 (82705)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------